

# 私の箱根駅伝応援記

「そうだ、箱根駅伝に行こう！」～家族で箱根駅伝(第91回大会)観戦の旅

S63年法学部法律学科卒 吉越直樹

## 1. 箱根駅伝、現地観戦のはじまり

私は毎年テレビで箱根駅伝を見ながら母校の応援をしていましたが、第85回大会における「新・山の神」柏原選手の活躍を見て「現地で箱根駅伝を見たい！」と思うようになりました。

そして、翌年の第86回大会を皮切りに、第88回大会まで3大会連続で、家族4人(私と家内、2人の娘)で箱根駅伝を現地で観戦しました。

目の前で走る選手を見て驚いたのは、スピードがとても速いということでした。1kmを3分とよく聞きますが、実際に見るとどんなにすごい速さなのかよくわかります。

## 2. 第91回大会現地観戦、大手町から横浜へ、そして小田原へ

今回の観戦も大手町のスタート地点から始めることにしました。スタート1時間前に大手町に到着し、何とか場所を確保して親子で声援を送りました。ピストルの合図で一斉に選手がスタートし、「あっ」という間に走り去る選手の姿を見送って、東京駅から東海道線に急いで乗り込みました。



次は横浜駅東口の本学応援ポイントに向かいます。ここで服部勇馬選手の力走を応援!「勇馬〜!勇馬〜!」新潟県出身ということもあり、応援にも力が入りました。

全選手が通過し終わると、再び東海道線に乗り小田原中継所に向かいます。中継所の近くの観戦場所では、これから五区を走る五郎谷選手に遭遇!「五郎谷君がんばれ!」と思わず声をかけると、五郎谷選手は「はい!」としっかり返事を返してくれました。

## 3. 五郎谷選手、山古志合宿で鍛える

五郎谷選手は、石川の遊学館高校時代から6回も山古志合宿に参加して、箱根の山登りをするためにがんばってきました。

第91回大会に初めて5区で起用されましたが、低体温症に悩まされ、区間11位に終わりました。しかし翌年の第92回大会では経験を生かして対応し、1時間19分53秒という好記録で、青山学院大学の神野選手に次ぐ区間第3位で走り、準優勝に貢献しています。



左先頭が五郎谷選手

## 4. 箱根駅伝第二章、我が家の「5区山登り」!?

第91回大会が終了した後の3月某日、親子4人、自家用車で5区山登りをしてきました。早春の小田原から5区のコースを芦ノ湖までドライブした後、箱根駅伝ミュージアムを見学しました。実際に5区を走ってみると、カーブも多く勾配もあり、道幅が狭い部分も結構ありました。これはテレビ観戦ではとてもわからないことだと思います。こんなところを足で走っていくなんて、すごいというか…驚くばかりでした!



## 5. これからも応援します我が母校、そして箱根駅伝!

1月3日に箱根駅伝復路が終了すると「来年はどうする?」と、もう来年の話を始めています。お正月は何かと忙しいのですが、また行きたいと思ってしまうのは、やはり箱根駅伝の魅力でしょうか!?

選手の皆さんの目標はもちろん「優勝」だと思いますが、私としては、いつ優勝してもおかしくないという存在感の強いチームであってほしいと思っています。そのようなチームづくりの延長線上に優勝がついてくるのではないのでしょうか。これからも家族ぐるみで選手の皆さんを応援します。「輝け鉄紺! がんばれ東洋大学!!」

### ◆◆ 陸上競技部山古志合宿募金の御礼 ◆◆

平成27年度の山古志合宿の募金は158名の方より総額362,000円のご寄付とシップ薬1箱、コールドスプレー3本を頂きました。

本当に有難うございました。

(校友会新潟県支部長 斎藤 淳)

県内で活躍する  
校友を紹介します

# 第3回 ザ校友

## 新藤 幸生 氏

S54年工学部電気工学科卒  
新潟市秋葉区在住。本年3月に小合郵便  
局長を退職。母の介護の傍ら青少年問題  
や「ちあきの会」等で活躍しています。

—本日は有難うございます。早速ですが、「ちあきの会」とはどういう会ですか？

**新藤** 「ちあきの会」とは琵琶湖周航の歌（♪われは湖の子さすらいの〜）をご存じですよね。その作曲者が吉田千秋です。当時は作曲者不明ということでしたが、調査の結果吉田千秋作曲の「ひつじぐさ」が原曲ということが判明したのです。その人の生家が、地元秋葉区大鹿にあります。

「ちあきの会」創設のきっかけは15年前、世の中の常識が変わり、子どもたちも目標を持たなくなる傾向が強まり、覇気がなくなりつつある。目標をもつと、何とか達成しようと意欲がでて頑張り、意識や行動も素直になる。

そこで何とか子供達を激励し多くの人を知っている琵琶湖周航の歌の原曲「ひつじぐさ」の作曲者である吉田千秋の調査を仲間数人と開始したのです。会員は、現在は150人位います。昨年7月12日に「ひつじぐさ」発表から100年イベントを地元で開催しました。



▲ちあきの会での新藤氏



▲ひつじぐさ発表イベント風景

—それでは、ちあきの会はただ単に吉田千秋を研究するだけでなく青少年健全育成という大きな目的もある訳ですね。それでは新藤さんの青少年時代はどんなだったのですか？

**新藤** 少年時代は、どちらかというとおとなしくて体を動かす事は苦手だったですね。ただ自分で言うのもなんですが、頼まれると断ることのできない、奉仕の誠心は旺盛だったように思います。

—学生時代には何かエピソードみたいなのはありますか？

**新藤** 大学は工学部でしたので川越校舎のみであり、現在では住宅街の真ん中になってしまったようですが、当時は芋畑の真ん中に隔離された状態の「男だけの学園？」であったと思います。実験等の必修科目が多く学校まではまじめに通っていましたが、教室までたどりついたか…のあたりになると、あまり記憶に無い）何をやっても楽しい時間であったと思いますが、工学部にも「落語研究会」を作りたい！という級友がおり、発起人らしきお手伝いをし、気が付けば、おまえも「やるんだよ」と言われ、急遽練習が始まりました。初めての高座は工学部でしたが、まともにできる奴がいなかったことから、どこぞの女子大から友情出演を頂き、なんとかあったと記憶しております。サークルとしての登録、認可の手続きをすることで大学の仕組みがようやく理解できたような気がしました。落語をやってみて、会場のみなさんの反応などを以外と冷静に観察している自分にも少し驚きましたが、相手に意思が伝わったかどうか明確に反応としてかえってくるころに高座と客席のやり取りの魅力のようなものを感じました。この時の体験から、相手に自分の意思を正しく伝えるためには、多くの言葉を並べる前に、そもそも相手がどの程度理解しているのか、「探りを入れる」（落語では小話として会場の反応をみてから本題に入る）、あたりから入るといった戦術を身に着けたように感じます。最終的には落語と全く同じ「問（ま）」の取り方がコミュニケーションをとる場合の重要な要素であると学び社会に出ることになりました。

—卒業後すぐ小合郵便局に勤められたのですか？

**新藤** いえ。10年ほど民間企業に勤めました。その後平成2年3月24日付けで父親の後任局長として、3代目の小合局長に就任し本年3月に退局いたしました。

—先程ちあきの会の話の時青少年健全育成にかなり力を注いでいるとお聞きしましたが、その辺のお話を聞かせて頂けませんでしょうか？

**新藤** 青少年の健全育成に関わりはじめたのは中学校のPTAからでした。当時の環境は、未成年者がたばこを吸う、自動二輪の免許を取れば「けたたましい」音響を放ち、走り回るといった状態でした。こうした苦情はPTA会長をしていた私のところへと直接持ち込まれるようになります。「悪ガキども」を黙らせろ、つまり大人にとって「都合の良い子ども」を作ることが与えられた使命のような時代でした。これには大きな疑問を感じ、活動の見直しをすることとなりました。問題行動を起こす子供たちには共通した点がいくつか確認されました。その一つに親たちの不安や不満がありました。なにか都会から離れた不便なところで子育てをする、どこか投げやりな毎日が（ふうとため息）当然子育てにもそのまま影響が出ます。目標も、夢もない状態で子供たちは成長することとなり、導かれる結果は明白でした。そこで「自分たちの地域も満更でもない」と気付かせる活動に取り組みました。保護者たちを集め、地域の歴史や産業、特産の調査を開始し、結果が次々とまとめられることになり「よいこのつくりかた」が誕生しました。

地域の多くが関わっている園芸業は、明治時代から海外との貿易が行われ、外貨獲得の重要な産業であったことや、それに関わる事業が現在まで引き継がれていたことなど、徐々に自分たちの地域が「満更でもない」ことが判明していきました。こうした活動により、親たちに変化が起こります、先人たちが築いてきたものを、次代に引き継がねばとの自覚が生まれました。いつしか子供たちに「夢を託す」ような子育てへと変化します。勉強すれば、努力すれば「自分の夢」は必ず実現できる、子供たちは遊んでいる場合ではなくなりました。みんな自分の明確な夢を持つようになり「人材」として巣立っていくようになる。ついには憧れの読売巨人軍にドラフト5位指名で入団する少年まで現れ「夢は実現できる！」が子供たちの合言葉になりました。

—それは、青少年の意識改革の前にまず親、大人、

**地域の意識改革が重要だということですね。壮大な作業になりましたね。今後はちあきの会も含め、こういった活動をなさるつもりですか？**

**新藤** 地域の歴史や宝物をまとめて「よいこのつくりかた」なるものを作成したのが平成15年のことでした、地域の保護者と小中学校の先生等へ配布され、高い評価をいただくこととなりましたが、地域のお年寄りから、ぼつりぼつりとお声がかかるようになりました。「あのときのできごとはあなたのまとめたもので間違いはないのだが、当時関係者の間ではこんなやりとりがあって結果がああなった」とか「あの件を知っているのは私だけになってしまったので、私が生きているうちに事実を伝えておく」とかナマナマしい現実を知ることになり…そこで、10年以上もたっていくつか「非現行」となってしまった部分もあるので新たに編集をし直して再発行をしたいと考えていました。

ちょうど定年退職もし、介護の合間に時間だけは確保できたため、勝手な判断で発行したいと考えております。また、地域の宝物のひとつとして取り組んで来た「ちあき」の会については、今年で活動開始から15年目となり、いまだに100名を超える会員により支えられておることに感謝し、なにかの御礼の機会を持ちたいと考えます。

また、来年が琵琶湖周航の歌、誕生から100年目となることから、大きな節目としての活動に挑戦してみたいとも考えております。

### 取材の感想

次から次へと考えを膨らませる新藤氏発想力の豊さ。引き受けられ後は引かぬという意志の強さに感心させられました。

取材：S50年文学部英米文学科卒 本間 直彦

本文中に登場した「よいこのつくりかた」に興味のある方は直接新藤氏にお問い合わせください。

新潟市秋葉区小戸下組306 TEL 090-3145-7495



◀ 15年間続けた金魚すくいに集まる子供達

# 世界へ羽ばたく東洋大陸上部



▲2016リオ五輪鉄紺だるま

～リオ五輪代表激励会に参加して～

S34年社会学部社会学科卒 村田 弘



## 1. 世界への挑戦

大学駅伝で常に上位の成績を挙げている陸上競技部、世界を目指す選手の育成にも力を入れている。

今回のリオ五輪代表にOBの石川・北島選手と競歩の松永選手が選ばれた。

去る5月28日、川越キャンパスで激励会が行われ、大勢の参会者で盛り上がった。後にOB設楽悠太選手、短距離の桐生・ウォルシェ選手代表となる。

## 2. 監督・選手のコメントから

### 酒井監督



世界で戦える選手の育成を目指してきた。今回3人が代表に選ばれた。東京五輪にもつなげたい。

### 川島前監督・北島選手



学生時代からケガが多く、独自の練習方法を身につけてがんばった結果代表になる。「いい結果を出したい」

### 松永選手



「自分の力を発揮すればメダルに届くと思うのでがんばります」と意気込みを力強く語る。前回の西塔に続く。

### 石川選手



合宿中で欠席。ビデオレターで「感謝の気持ちで走ります」とコメント。

## 3. 服部兄弟に期待



“ゴールデンゲームスinのべおか”の5,000mで13分34秒64の自己ベストを出して勢いにのる服部弾馬選手。箱根駅伝優勝を応援する会の会長安藤繁晴さんと「オリンピック目指してがんばれ!!」と激励。「ハイ!がんばります!!」と返事。

2月に東京マラソンで大健闘したが代表入りはできなかった兄の服部勇馬選手、実業団(トヨタ自動車)で東京五輪目指してがんばっている。入学した時から世界を目指してきただけに同県人として期待し精一杯応援したい。我々にできることは、心のこもった応援である。選手達には何よりの励みとなる。がんばれ!服部兄弟!!

**輝け鉄紺、がんばれ東洋大学**

# 校友会支部活動 topics

## 東洋大上越校友会 総会・懇親会

H7年社会学部応用社会学科卒 坂手 成雄

東洋大上越校友会（植木宏会長）の平成28年度総会・懇親会が6月26日、上越市西城町3の高陽荘で開かれた。会員14人が集い、同窓の絆を深め合った。

冒頭で植木会長は、昭和25年にまでさかのぼる会の盛衰の歩みを振り返り、先人の努力に感謝。現状を、新しい時期への転換期ととらえ、「年齢や職業等の枠を乗り越えてやっていきたい」と、活性に向

け期待を込めた。

議事で、経過報告、会計・監査報告、会則変更、新役員等を承認。新会長には、小島正弘副会長を選出した。植木会長は、顧問に就く。

続いて、湯尾和広さん（上越市教育委員会学芸員）を講師に迎えての卓話。湯尾さんは、全国で唯一所在が確定していない「越後国分寺」について、考古学の見地から解説した。



▲あいさつする植木会長



▲「越後国分寺」の所在について解説する湯尾さん

## 第11回大学対抗親善ゴルフコンペ

S53年工学部応用化学科卒 吉田 実

平成27年10月18日妙高サンシャインゴルフ倶楽部にて大学対抗親善ゴルフコンペが開催されました。

東洋大学校友会新潟県支部から1チームが参加し団体戦で敢闘賞を受賞しました。

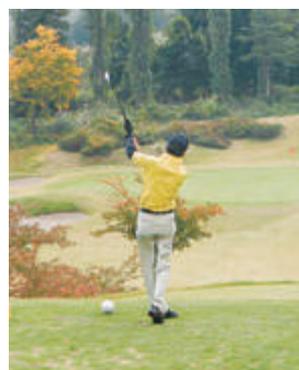
出場選手は長岡から木村副支部長と高坂さん、上越から澤海さんと吉田の4名です。

好天に恵まれ楽しくプレイさせていただきました。

平成28年度の第12回大会は10月16日に開催されます。参加希望の方は上越・吉田まで（携帯080-5063-6562）



▲長岡 木村副支部長のナイスショットシーン



▲長岡 高坂選手のショットシーン



▲妙高サンシャインゴルフ倶楽部INコース8番ショートホールにて



▲上越 澤海選手のショットシーン



▲上越 吉田選手のボールはバンカーへ？

## ■ 村上町屋巡り

このたび、校友の交流を深めるべく、町屋の屏風まつりが開催されている村上の町屋をめぐり、校友の浅野さんが経営している瀬波温泉「汐美荘」で懇親を深めてきました。9月23日（水）シルバーウィークの最終日、新潟駅からマイクロバスで、途中、新発田からの参加の校友も合流し村上へ。

今回の企画には15名の校友の参加をいただきました。本部からは、福島副会長(当時)においていただき大変ありがとうございました。屏風巡りではボランティアガイドもつき、「喜っ川」では、社長自ら塩引き鮭の説明していただき、又「富士美園」では、亭主のお茶で、茶器にまでこだわったおもてなしをいただきました。

その後汐美荘での逗留組と合流し、福島副会長(当時)より、母校の現状や校友会の現状の説明を受けたあと懇親会へと進みました。懇親会では、浅野社長の御好意もあり豪華な料理でした。余興として阿部吉弘氏の高価?クラリネットで、「津軽海峡冬景色」「川のながれのように」の2曲が演奏されました。最後は阿部吉弘氏の伴奏で校歌を斉唱し、浅野社長自らの御見送りをしていただき、マイクロバスで、坂町、新発田、豊栄を經由し新潟駅にて解

散をいたしました。様々な方々のご厚意により楽しい一日となりました。

今回の企画、下越を中心にかなりの校友にご案内させていただきました。ブログでも紹介しました。

初めての企画、総会後の連休の開催、いろいろありましたが、でも、15名もの校友に参加いただき本当にありがとうございます。地道にコツコツ、校友とのつながりを大切に、支部活動の充実・強化を図っていきたいと思います。



▲喜っ川の社長（中央）より説明を受ける

▲富士美園での亭主のお茶でおもてなし



▲福島副会長（当時）説明風景

▲挨拶をする汐美荘浅野社長



▲クラリネットを演奏する阿部氏



## 東洋大学現代学生百人一首

S57年法学部経営法学科卒 小林 広明

第29回東洋大学現代学生百人一首100周年記念事業のひとつとして始められた東洋大学現代学生百人一首に東京学館新潟高等学校の生徒が3年続けて3人入選しましたので、紹介いたします。

東京学館新潟高等学校は、毎年30名近く東洋大学に合格者を輩出している高校です。

忙しい部活動の合間を縫って2年生（入選当時1年生）の山口 響さんが話して下さいました。

入選した歌は

「午前四時レスキュー派遣される父玄関ドア音私は聴いている」

茨城県の水害の時派遣される父がまだ薄暗い中ひとり準備している様子を詠んだ歌だそうです。

入選したと教えられた時はピンとこなかったけれど時間がたつにつれて実感がわいてきたそうです。

父も大変喜んでくれたと嬉しそうに話してくださいました。又、今年の大学訪問で東洋大学を訪れた際、菊地義裕教授から数字の入っているところがいいですねと褒められ大変感激したそうです。

7月からは、書道部の部長を務めることになり、多くの部員をまとめるのが大変とも話してくださいました。



▲小林氏（左）と一緒に写る山口さん  
作品は山口さんの自筆です

## 「安吾生誕祭110」のご案内

と き：2016年10月8日（土）：開場午後1時30分  
ところ：新潟市芸術文化会館能楽堂（りゅーとぴあ）

◇第1部（午後2時～午後3時）

・講演：坂口綱男（写真家）「新潟と安吾」

◇第2部（午後3時15分～午後5時）

・対談：柄谷行人（哲学者）×佐藤優（作家）「坂口安吾の現代性」

司会・武藤旬（「文学界」編集長）

生誕110年、没後61年を経てなお「現代性」を失わない安吾の文学／思想。

「戦争論」「平和論」「国家論」といった様々な角度から安吾を論じ、1990年の没後30年の際にも、新潟で「安吾のふるさと」をテーマに講演を行った柄谷行人氏。

そして、今年第10回坂口安吾賞を受賞した佐藤優氏は、高校生の時に「桜の森の満開の下」を読み衝撃を受け、現在は「宗教」という視点から安吾に関心を持っているという。

日本の知性を代表する二人が、安吾をめぐる活発な議論を交わす。

続発するテロに象徴されるように世界情勢が急速に流動化し、グローバル資本主義が岐路を迎える中、安吾はわれわれにどのような手がかりを与えてくれるのか——今こそ必聴の対談である。

- ・定員：360人（応募多数の場合は抽選）
- ・申し込み：往復はがきで申し込む。往信裏面に郵便番号、住所、電話番号、代表者名、希望人数（2名まで）。返信表面に代表者の住所、氏名を記入し、〒951-8550 新潟

市中央区学校町通1 新潟市文化政策課  
「安吾生誕祭係」まで。締切りは9月26日（月）必着。

・連絡先：新潟市文化政策課 025-226-2563

### 坂口安吾生誕祭110関連イベント

◆安吾風の館企画展「旅・高麗神社の祭の笛」

・期日：7月30日（土）～11月23日（水）

連絡先：安吾風の館 025-222-3062

◆無頼派と焼け跡闇市派—坂口安吾と野坂昭如展

・期日：10月7日（金）～11月27日（日）

・会場：にいがた文化の記憶館（中央区万代3  
新潟日報メディアシップ5階）

連絡先：にいがた文化の記憶館 025-250-7171

◆「安吾風の館」見学とゆかりの地めぐり

・期日：10月10日（月）

午後1時30分～午後3時30分

・会場：安吾風の館（中央区西大畑町5927-9）に集合

連絡先：新潟市文化政策課 025-226-2563

◆安吾杯こども将棋大会

・期日：2016年10月15日（土）

午前9時30分～午後0時

連絡先：新潟市文化政策課 025-226-2563

詳細は校友会新潟県支部のブログ又は連絡先にお問い合わせください。

東洋大学校友会新潟県支部 検索



安吾風の館

萩野 リオ五輪で日本勢第1号 金メダル!



8月7日に行われた水泳男子400m個人メドレー決勝で、
母校在籍中の萩野公介選手が金メダルを獲得しました。(記録4分6秒05)
おめでとうございます!!

事務局より

◎校友会費納入についてのお願い

支部活動は校友会費納入による、支部還元金によって運営されております。納入頂いた方には、校友会本部から「東洋大学
校友会報」が年4回送付されます。この甫水も還元金によって
多くの方々の手をわずらわし、発行させていただいております。
年会費 3,000円 終身会費(1回完了) 50,000円
郵便振替 口座番号 00150-0-91833
加入者名 東洋大学校友会

◎甫水では、校友からの作品(絵画、書道、俳句、短歌、挿絵、
生け花、盆栽等)を募集しております。

自薦、他薦いづれでも結構です。又、校友の動静がわかりま
したら、ご連絡おねがいします。

【連絡先】

- 会報部長 小林 広明 〒951-8151 新潟市中央区浜浦町2-30-1 電話 025-265-3840
上越地区事務局長 石田 秀男 〒942-0071 上越市東雲町2-8-16 電話 025-543-7224
中越地区事務局長 高坂 寛二 〒940-0098 長岡市信濃2-10-35 電話 0258-35-5878
下越地区事務局長 阿部 吉弘 〒959-1865 五泉市本町2-2-12 電話 0250-42-5061
会報事務局長 本間 直彦 〒950-0992 新潟市中央区上所上1-12-6 電話 025-283-3919

校歌

作詞 林 古溪
作曲 山田 耕筈

亜細亜の魂再び此処に
目覚めしよろこび溢れつ人に
雄々しく掲げたり鬨の声
東洋大学生れぬかくて
亜細亜の天地暁明けて
仁義と慈悲との誠の光
今こそ輝け西の海
東洋大学務は重し

平成28年度 東洋大学校友会新潟県支部役員名簿

Table with 3 columns: 役職名, 氏名, 所在地. Rows include 顧問 (安藤 良顕, 植木 宏), 支部長 (斎藤 淳), 副支部長 (本間 直彦, 木村 国夫, 小島 正弘), 事務局長 (阿部 吉弘), 会計部長 (皆木 邦夫), 監事 (坂田 康雄).

Table with 3 columns: 役職名, 氏名, 所在地. Rows include 監事 (新藤 幸生), 会報部長 (小林 広明), 会報係 (各地区事務局長兼務), レディースクラブ部長 (内田美磋子), レディースクラブ副部長 (平田 知子), レディースクラブ支部役員 (大河内邦子), レディースクラブ事務局長 (高崎 弘子).

Table with 3 columns: 役職名, 氏名, 所在地. Rows include 山古志合宿激励会実行委員長 (支部長兼務), 下越地区事務局長 (阿部 吉弘), 中越地区事務局長 (高坂 寛二), 上越地区事務局長 (石田 秀男), 下越地区事務局監事 (渡辺 仁).

編集後記

校友会の皆様いかがお過ごしでしょうか。本年も何とか第32号甫水をお送りする事が出来て深く感謝申し上げます。

本会報は、校友会の皆様楽しく読んで頂ければと発行してある次第ですので、新潟県内での母校の出来事や校友の動静、皆様の近況や宣伝・募集など各地区の情報をお知らせ下さい。

また甫水の内容についてのご意見・ご要望もあれば、ご遠慮なくお寄せ下さい。

より良い校友会新潟県支部会報“甫水”が、今後も出ていきますようお願いしております。

会報部長 S57年法学部経営法学科卒 小林 広明